

出題分析			
試験時間	90 分	配点	200 点
		大問数	4 題
分量 (昨年比較)	[減少] 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] 同程度 難化]
<b>【概評】</b> 今年は空所補充の 1 題がマーク形式に変更され、マーク形式が 1 題、空所補充が 2 題、記述式が 1 題となった。形式が変わっただけで、例年どおり正しく計算ができれば完答できる問題が多い。[1]の小問集合は問題数は変わらず、難易度も特に変化はない。[2]～[4]は典型的な問題が並んだが、[2]は計算、[3]は数え上げがしっかりとできないといけない。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
[1] (1)	〈全問マーク形式〉 数列 ・数列の和	等差数列と等比数列の積の和を求める問題。等比数列となっている部分の公比 2 を両辺に掛ける。	標準
(2)	三角関数 ・2 倍角の公式 ・三角関数の不等式	三角関数の不等式に関する問題。与式を $\sin x$ に統一するため 2 倍角の公式 $\cos 2x = 1 - 2\sin^2 x$ を用いる。	やや易
(3)	数と式 ・絶対値を含む方程式	絶対値を含む 1 次方程式の解に関する問題。絶対値記号の中の式が「0 以上」「0 未満」で丁寧に場合分けして絶対値記号を外す。	やや易
(4)	図形と方程式 ・円と直線の位置関係	円と直線が接するときの接点の座標を求める問題。判別式、点と直線の距離の公式どちらを用いても解けるが、接点の $x$ 座標も問われているので判別式を用いるほうが素早く解ける。	標準
[2]	〈空欄補充形式〉 微分法 積分法 ・面積 ・回転体の体積	数学Ⅲの微分・積分に関する定型問題。計算ミスに注意して解き進めていけばよい。(2)の $f(x)$ の最大値は、4 次関数 $\{f(x)\}^2 = x^2(5-x^2)$ を微分しても求めることができる。	標準
[3]	〈空欄補充形式〉 場合の数と確率 ・組合せ	取り出したカードに関する確率の問題。(1)を丁寧に考えれば、(2)はその結果を使えばよく、 $X \leq 12$ は書き出せばよい。(3)は余事象をうまく使えるかがポイントである。	標準

4	〈記述形式〉 対数関数 ・対数関数の最大 微分法	対数を含む関数の問題．計算ミスに気を付けたい．（3）はグラフで考察する．（2）で求めた3次関数のグラフ $u=g(t)$ と $u=a$ のグラフがちょうど2つの共有点をもつ場合で，直線 $u=a$ は極値における接線になっている．	標準
---	-----------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

過去3年間の出題範囲							
年度	数学Ⅰ				数学A		
	方程式・不等式	集合と論証	2次関数	三角比	場合の数 確率	平面図形	数学と人間の活動
2026	[1](3)				[3]		
2025					[1](1)		
2024					[1](2)		
年度	数学Ⅱ						数学B
	高次式	複素数	図形と方程式	三角関数	指数対数	微積	数列、 数学的帰納法
2026			[1](4)	[1](2)	[4]	[4]	[1](1)
2025	[1](3)			[3]	[1](2)		[2]
2024	[1](1), [2]			[2]			[1](3)
年度	数学Ⅲ				数学C		
	関数	極限	微分	積分	平面ベクトル	空間ベクトル	複素数平面 2次曲線
2026			[2]	[2]			
2025				[3]	[4]		[1](4)
2024		[1](3)	[4]	[4]		[3]	

※[ ]内の数字は大問番号，（ ）内の数字は小問番号をそれぞれ表す．

合格のための学習法
<p>1の小問集合は例年どおりの難易度であった．手早く1を解き切るために，過去問演習を通じてしっかりと練習しておきたい．また，日頃から丁寧に計算することと，複雑な計算もしっかりとやり切るようにしておきたい．典型問題・頻出問題の演習と計算力を付けることが合格への近道だろう．今回の日程では数学C分野からの出題がなかったが，おろそかにせずバランスよく勉強してほしい．</p>